

## ■ 陸域観測技術衛星 2 号「だいち 2 号 (ALOS-2)」搭載 合成開口レーダ単偏波画像のカラー化

# RESTEC

研究開発部 副主任研究員 古田竜一

宇宙航空研究開発機構 (JAXA) が本年 5 月 24 日に打上げられた、「だいち 2 号 (ALOS-2)」に搭載されている合成開口レーダ (SAR) の単偏波画像は、マイクロ波の後方散乱強度をグレースケールで表現して地表を可視化しています。いわゆる、白黒画像で、新規ユーザが利用し難い原因の一つでもありました。

RESTEC では、SAR 単偏波画像 (白黒画像) をそれ自身が持つ情報のみを利用してカラー化する技術を開発しました。今回、本技術を JAXA 提供の「だいち 2 号 (ALOS-2)」サンプル画像に

適用し、白黒画像から色彩豊かなカラー画像を作成できることを確認しました。

本技術により、単偏波で観測した場合でもカラー画像が得られ、地表の状況を判読しやすい SAR 画像を提供できるようになり、様々な分野への活用へ期待できます。

今後も RESTEC は、日本の誇る L バンド SAR 技術から取得される衛星画像の利用拡大に向けて取り組んでまいります。



↑ 「だいち 2 号 (ALOS-2)」搭載の PALSAR-2 が 2014 年 6 月 20 日に観測した富士山周辺の単偏波画像 (左図) から作成したカラー画像 (右図)。元データは、JAXA 提供のサンプルプロダクトを利用。

## ■ 陸域観測技術衛星 2 号 / 陸域観測技術衛星の運用及び 観測データの一般配布について

# RESTEC

RESTEC と (株)パスコ及び宇宙技術開発 (株) の三社共同提案により、宇宙航空研究開発機構 (JAXA) が公示した「平成 26 年度～平成 28 年度陸域観測技術衛星 2 号 (ALOS-2) 及び陸域観測技術衛星 (ALOS) の運用及び観測データの一般配布」について、指定業者として採択されました。

本業務は、JAXA が打上げた ALOS-2 及び ALOS の運用を確実にかつ効率的に実施するため、RESTEC を主契約事業者とする共同企業体を構築し、ALOS データ、ALOS-2 データ利用の一層の拡大を目指します。

本業務における各社が担う業務については以下のホームページからご覧になれます。  
<http://www.restec.or.jp/?p=13674>

## 第7回 GEOSS アジア太平洋シンポジウム 開催報告



第7回GEOSSアジア太平洋シンポジウムが、5月26日(月)～28日(水) 東京両国 KFC ホールにて開催されました。シンポジウムには20ヶ国10国際機関から238名の参加があり、「持続可能な開発目標への取り組みに向けてGEOSSの進化が社会に与える恩恵」をテーマに、全体会合、5つの分科会を実施し、各国の活動報告、意見交換のほか、具体的な協力実施に向けた議論が行われました。最終日には本シンポジウムの成果を取りまとめた提言として東京宣言(Tokyo Statement)が採択されました。



本シンポジウムは文部科学省主導の下、GEO(地球観測に関する政府間会合)主催で開催しているシンポジウムです。開催

にあたり、ご協力頂きました関係機関の皆様及びシンポジウムに参加下さいました皆様へ感謝申し上げます。

第7回 GEOSS アジア太平洋シンポジウム HP [https://www.restec.or.jp/geoss\\_ap7/](https://www.restec.or.jp/geoss_ap7/)

## 平成26年技術成果報告会開催報告



平成26年6月9日に平成26年技術成果報告会を開催しました。賛助会員の他、省庁等関係機関及び民間企業、ユーザ機関より約120名の方にご参加いただき、ソリューション提供事業において活発な意見交換をしました。当日の発表資料はRESTECホームページよりご覧ください。



<http://www.restec.or.jp/about/achivement/h26program.html>

## 全球降水観測計画主衛星 (GPM 主衛星) の初画像について



全球降水観測計画主衛星 (GPM 主衛星) が取得した雨の初画像を紹介します。RESTEC は、JAXA 業務支援として、アルゴリズム開発支援およびCG 専門家と連携した広報業務支援を担当しました。

図1は3月10日23時頃(日本時間)に、日本の東海上にある発達した温帯低気圧による降水内部の鉛直構造です。図2は6月17日20時頃(日本時間)に九州南部にある梅雨前線が台風7号の接近に伴い活発化した降水内部の鉛直構造です。

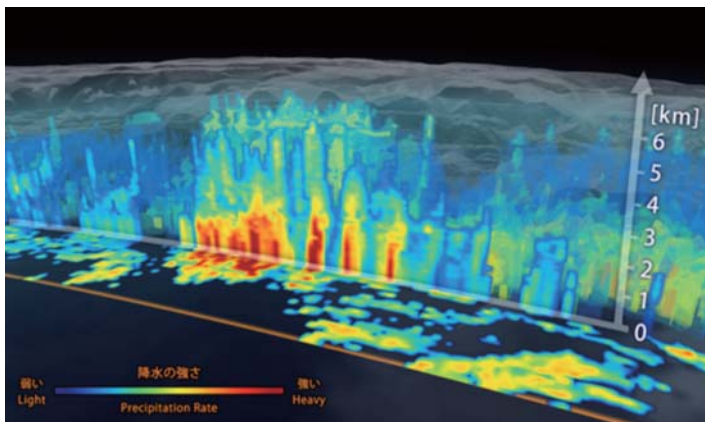


図1. 日本の東海上にある発達した温帯低気圧による降水内部の鉛直構造

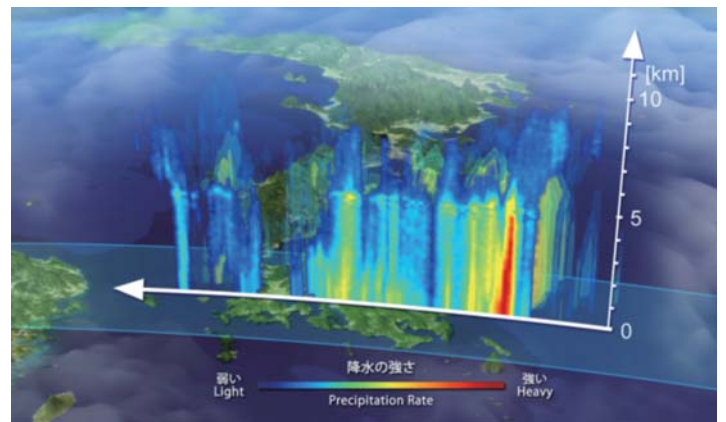


図2. 九州南部にある梅雨前線が活発化した降水内部の鉛直構造

■ 編集後記 RESTEC では英語版のニュース配信を開始しました。本ニュースは月に1度配信する予定です。ご興味のある方は、こちらからメール登録をお願い致します。 E-mail: [e-news@restec.or.jp](mailto:e-news@restec.or.jp) また、これまでに配信してきましたニュースは、こちらから確認ができます。ぜひ、ご覧ください。  
<http://www.restec.or.jp/english/training/e-news.html>